

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 不二聖心女子学院中学校・高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 4 1 0 - 1 1 2 6

静岡県裾野市桃園 1 9 8

E-mail fuji@fujiseishin-jh.ed.jp

Website http://www.fujiseishin-jh.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 0 名 女子 419 名 合計 419 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 18 歳

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月～平成 3 0 年 3 月

※報告書提出時点～平成 3 0 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校の教育理念は、「一人ひとりが神の愛を受けたかけがえのない存在であることを知り、世界の一員としての連帯感と使命感を持って、より良い社会を築くことに貢献する賢明な女性の育成を目指す」というものである。世界の一員としての連帯感と使命感を持つということは、ESD が重視する「地球上で起きている様々な問題が、遠い世界で起きていることではなく、自分の生活に関係していることを意識付ける」ことと極めて関連が強い。次にあげる 3 本柱 (環境教育、国際理解教育、平和・人権教育) を軸に様々な活動を展開し、他者や世界との「つながり」を重視し、強め、実感させ、生徒自身の生き方の「変容」を期待していくことが本校の ESD の大きな目標である。

① 環境教育

○校内の自然環境を利用した、生物多様性を意識した森づくり活動

○校内の森林保全活動

・「矢作川水系森林ボランティア協議会」の方々の指導による「森の健康診断」

・上記の「森の健康診断」の成果を踏まえた上での間伐体験 (写真 1)

- ・ NPO法人「土に還る木 森づくりの会」の指導を受け、間伐材を利用した木工作品のアイデアコンテスト、商品化、チャリティでの販売 (写真2)
- 生物多様性と森林保全に関する講義・講演
 - ・ 農学部に進学した本校卒業生による、森と人との関わりについての講演
 - ・ 三井物産株式会社の方による、社有林を活用したCSRについての講演
 - ・ 宮大工の方による、宮大工の仕事と間伐材の活かし方についての講演
- 「温暖化緩和策としての森林保全」を議題とした模擬国連の実施

② 国際理解教育

- 海外への留学生を送る (姉妹校を含む)
 - ・ 長期留学・・・カナダ姉妹校 (1名)、メキシコ (1名)、NZ (1名)
 - ・ 短期留学・・・米国セントルイスの姉妹校に1ヶ月
- ホンジュラスと韓国からの留学生、各1名の受け入れ (写真3)
- 海外体験学習の実施 (高校生希望者を対象)
 - ・ アメリカ合衆国・ボストンでのグローバルキャリアプログラム
 - ・ 韓国での体験学習
 - ・ 姉妹校主催のカンボジアでの体験学習へ生徒派遣
 - ・ 台湾での世界各国の姉妹校生徒が集まる文化交流プログラムへ生徒派遣
 - ・ イギリス・ケンブリッジでのグローバルキャリアプログラムの実施 (予定)
- グローバルな意識を涵養するチャリティ活動へ参加・協力

③ 平和・人権教育

- 長崎での平和学習旅行 (キリスト教と原爆) とその準備 (高校2年) (写真4)
- 広島での平和学習旅行 (エキュメニズムと原爆) とその準備 (中学3年)
- 女性としての生き方「人間学」について学ぶ講演や活動 (高校3年)
- チャリティ活動、奉仕活動への参加



写真1 間伐体験



写真2 間伐材を利用した木工作品



写真3 留学生との交流会



写真4 長崎での平和学習

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

| | | | |
|---|---|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input type="checkbox"/> 3. 防災 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間 (複数選択可)

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 休日における奉仕活動、長期休み中の体験学習など) | |

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 蔵治光一郎・洲崎燈子・丹羽健司編『森の健康診断』(2006、築地書館)・ United Nations Forum on Forests の National reports (http://www.un.org/esa/forests/documents/national-reports/index.html)・ TED のアル・ゴアの動画「気候変動についての楽観論」 (https://www.ted.com/talks/al_gore_the_case_for_optimism_on_climate_change?language=ja) |
|--|

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、①環境教育、②国際理解教育、③平和・人権教育をユネスコスクールとしての活動の3本柱としている。もともとこれらの活動は、ユネスコスクールに加盟する前から大切にしていた活動である。①環境教育については、高校1年次の総合的な学習の時間において行っている。②国際理解教育については、長期休みにおける各国での体験学習をはじめとして、全世界30か国に広がる147校の姉妹校や設立母体である聖心会の世界中で活躍するシスター方との関わりを様々な機会を活かして持っている。③平和・人権教育については、カトリックの学校であり、日々のお祈りや奉仕活動を通して日常的に考え、実践する機会を設けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校で取り組んでいる様々な活動において、特定の人だけに頼りきりにならないよう、担当者を固定せずに取り組むことを心がけている。また、学年を超えて様々な教員が携わる取り組みも多い。全ての活動において、「どの教員が担当しても実施が可能」という状況にはまだ達していないが、複数の教員が常に関わることによって、学校の中で理解が広がり、組織的かつ継続的に活動を続けていく土台ができています。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動全体に対する評価は特に行っていないが、それぞれの活動の実施後には関係の教員間で振り返り、次年度以降に向けて改善すべき内容等を検討している。例えば環境学習においては、生徒たちの主体的・対話的で深い学びをより高いレベルで実現するために、昨年度までの間伐材を用いた作品作りの活動に加えて、生徒たちが木工作品のアイデアを提出し、それを製品化し販売する活動を行った。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

近隣の学校とは距離が離れているため、なかなか関わりを持つことは難しい状況にあるが、本校敷地内にある茶畑にて、本校中学生と近隣の小学生が協働でお茶摘みを行った。地域との関わりにおいては、本校の敷地で採れた紅茶を利用した菓子（ソフィアージュ）の新製品を地域と協働で開発したり、地域のお祭りのボランティアとして生徒を派遣したりして、地域との結びつきを維持している。また一般公開される学院祭にて、環境学習や海外体験学習での学びの成果を発信している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

姉妹校に大学があるため、大学教員を派遣してもらい、高校生を対象に講演や出張講座などを行っている。また環境学習においては、地域のNPO法人や三井物産などの企業の協力を得ながら、活動を進めている。平和・人権教育に位置づけられる種々の奉仕活動においても、高校生は年に2度、中学生は年に1度、社会福祉施設や地域の公共施設などで奉仕活動を行い、学校という場を越えて、地域の中で活動に取り組んでいる。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

他のユネスコスクールとの交流は、現段階においては積極的には行っていない。2015年末に行われた、パリでの気候変動教育に関する国際セミナーに参加して世界各国のユネスコスクールと交流した経験をもとに、本校で行われている環境学習を振り返り、その成果をまとめたものを『カトリック女子教育研究』という機関誌に掲載し、姉妹校や関係の教員に対し本校の取り組みについて知ってもらう契機とすることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

日本ユネスコ協会連盟の主催するESD国際交流プログラム（インドネシア）への生徒が応募し、参加者として選抜された。環境学習の中で行っている模擬国連活動の成果もあり、全日本高校模擬国連大会の本大会へ、継続して生徒が出場している。生徒が自発的に奉仕活動に参加する流れも続いている。教員自身の国際的な交流への関心が高まり、日米教育委員会（フルブライト・ジャパン）が主催するESD日米教員交流プログラムに応募し、参加者として選抜された。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

環境学習については、昨年度と同様に「森づくり」をテーマに据え、森の健康診断や間伐体験、間伐材を利用した木工作品のアイデアコンテストを前半の活動として行い、後半には「温暖化緩和策としての森林保全」を議題とした模擬国連活動を行っていく。

国際理解教育については、姉妹校を含む海外校への長期留学・短期留学の促進、姉妹校を含む海外校からの留学生の受け入れ、海外体験学習の実施（米国ボストン、英国ケンブリッジ、韓国、カンボジア、台湾）に力を入れていく。また、平成30年度より、高校2年生全員が本校の設立母体である聖心会のルーツを巡る「パリ・ルーツの旅」に参加する。創立者の故郷やユネスコ本部への訪問などを行う予定である。

平和・人権学習については、毎日行われているお祈りや、定期的に行われる奉仕活動などに引き続き力を入れ、取り組んでいく。また長崎での平和学習が中学3年次で行われる。現地での研修や講話、教会での礼拝を通して、戦争や宗教（信教）の自由について理解を深め、平和を維持する大切さを学ぶ。